

幼児保育法につきて

東 基 吉

さて本日は、幼稚園の幼児保育法について、従來考へて居ります意見を述べて、かたゞ皆さんの御教示を願ひたいと思ひます。それで、何れ直接に子供の教育に従事せられて居る方々の前で、私の様な無経験の者がお話する事でございますから、或は失禮に當る様な場合もあるかも知れませぬが、其邊はドーカ御容赦を願ひたい。

幼児保育の根本主義と云ふものは子供の自由活動にあることは、フレーベル氏の言葉でござりまして、既に皆さんの御承知のことと考へます。子供の自然に従へ……子供の自然に従つて教育するといふことは今迄の教育者の凡ての口にした言葉でありまして、その子供の自然と申すのは、即、子供の自由活動……今日學

校などで非常に注意せらるゝ様になつた自由活動である。幼稚園の保育科目は即、それからできて居るのだと考へます。教へるよりも、寧ろ子供の自由活動を導いて行くこれが即幼児保育の精神であるのでございませす。

然らば子供の活動といふものは、どんなであるかと申しますと、それは、種々に分れて顯はれる、遊嬉とか、いろ／＼物を知りたがること、か、しきりに物を集めたがる、例令ば小石でも小礫でも何でも方々から集めにかゝること、か、又はしきりに話をしたがる、聞きたがる、或は美術的の發表、即種々に繪を畫いたり、見たがつたり、音樂を聞きたがつたり、唱ひたがる。これが、即子供の活動の發表の形であります、ですから、自然に放任せられた子供は、たい遊嬉ばかりで日を暮すのではなくて、種々なことをやつて居る。

併しながら、一番普通に現はれる形は遊嬉である、で、幼稚園の保育の科目は、こゝに基づいてできて居るのでありまして、文部省で規定した科目で見ましても、遊嬉、唱歌、談話、手技といふ様に、遊嬉が、一番先に立つて居る、小學校の科目で、修身が一番先にある様に、幼稚では、遊嬉が最、主要の位置を占めて居るのであります。そこで、先づ、遊嬉のことからお話し致して、それから他に涉らうと思ひます。

子供の遊嬉に付いては、スベンサーと云ふ様な人は、次の様にいつて居ります。遊嬉は、子供の内部的活力の餘つたものが、外に泄れ出るのである、と云ういふので、子供は活動力が盛でござりますから、たゞ内うらに活力が留まつては居ないので始終外に出す、大人になると遊嬉がだん／＼少くなる、それは、年を取れば活力が少なくなつて外には出ない、子供の時は、中

々、盛であるから始終外に泄れ出る、それが即遊嬉であると云ふのです。又グルースといふ人は、遊嬉は子供が將來の生業をなす其準備のためになる所の動物の本能であると、こゝいふのです。子供の遊嬉を見ますと、始終大人の眞似をして居る、商賣事であるとか戦争事であるとか、まゝごとであるとか。皆大人になつてからする所の生業の模型をして居るのです、子供の弄具で見ても、夫は分る、澤山な玩具があるが大抵は皆社會人事のことを小さくした模型であるのです。遊嬉に付いて 學説が、この二つあります、何れにしても、子供特有の、さく／＼普通の發表であることは明である。たゞ人類のみではなく、獸類で見ても判ります。

遊嬉の價値については、既に古くより一般に認められて、今日では、盛に小學でも採用せらるれば、幼稚園では、無論遊嬉だけでやつて居る様に、なかなか大

したものでありますが、身體の上からは無論のこと精神の上から……道徳知識の方から考へても非常なものであることは判つて居ます。古代ギリシヤの教育家プラトーなどは既に其時分から遊嬉の教育的價値を認めて遊嬉は、子供に早くから法律制裁に服従する習慣を養ふものであると述べて居ます。が、私が殊に深く考へる所は遊嬉では、子供が早くから、自分の意志を自分で實行して行く處に、最深い價値が存在するかと思ふのです。子供の起居動作は、始終丁年者の監督束縛を受けて居ることが多いが、自由に遊樂せる時は少しも他の束縛關涉を受けないで、種々の道徳的、知力的の意志を自由に實行して行く、それが即、意志の確定といふことに導く階梯になるのである。子供同士が自由に悠遊して行く中に、自然に自分等同士の制裁に服従し、規律を遵奉し、童話寓言で以て聞かされた種々の

道徳事實を實行して行く、そこに深い教育的價値があるのであらうと考へられる。遊嬉で規律を守らせるからといつて、何も強て、是非ともコンパスでやつた様に幼稚な子供を無理に排ばせて、夫で遊嬉が規律的行つたと考へるにも及ばない。無論、夫も宜しいでせうが、その他に深い意味がありますので寧ろ、其方に吾々は大に注意すべきではないでせうか。

かくのごとくに考へると、然らば吾には子供に遊嬉をさせるのには、どういふ風にやるべきであるかといふ問題が起つてくる。フレーベル氏はこう云ふことをいつて吾々を警誡して居る。即、子供を害するものは子供自身でなくて教師其人であるといふので、少し極端ではあるけれども、そう云つて吾々を誡めて居ります。つまり、其心は、子供の自然にやつて居つて、充分効果のあることを教育者が大人の心を以て妙に解釋

して人爲的にして仕舞つて、折角の教育的價值を没却して仕舞ふ場合が多いといふのです。現今一般に共同遊嬉を子供にやらせるですが、其時に教師なり保姆なりが、子供の遊び相手になつて一所にやる様にすれば宜しいが始終教師だぞと云ふ様に監督指揮の地位に立つて、こうなさい、あゝなさいと云つて指圖ばかりする様では、子供は遊嬉に於て、自分の意志を實行するよりも寧他人の意志即教師なり母なり意志を機械的に盲目的に實行して居る様であると考へられる。それでも此共同遊嬉がまだ夫をやる子供に適して子供に面白いと感ぜられる様なのであれば、まだしもですが、若し此共同遊嬉が子供に適しないものを或はやりたくないといふ時に何でも遊嬉の時間であるからといつて無理にやらせる様では尙更のことゝ存じます。

少し話が側に入る様ですが近刊の外國雜誌に種々幼

稚園のことを議論して居ましたが、其中に、こう云ふことがありました。「子供が自由に極めて自然的に遊んで居る時に、幼稚園の共同遊嬉がどの位彼等に依りて遊ばるか、つまり幼稚園の共同遊嬉を、どの位子供が自分等で好んでなすかを調べて見ると吾人は、其殆んど皆無なることを發見した」といふのです。私はまだ我國で調べて見ませぬが、やはり一寸見た所では少い様に思はれる、なる程女の子は、少しやつて居る様ですが、男の子は少い様です。それは男の子は、何でも思ふ様にやらうと考へるからでせう。それから考へて見ますと、幼稚園でやる遊嬉を男の子などが、自分等で勝手に遊ぶことが少ない、即言葉を代へて申すと彼等が好まないと申すのは、つまり、子供の自然に反したやり方で以て、やつて居る様なことが多いからで、子供は非常に自由の活動を好む、其中に自然に精神力

が知らず／＼發達するものを、吾々は何でも強て、規律的に劃然とやらせやうと云ふので大人の心を以て子供を解釋し、夫で以て關涉することが過ぎるのであると考へます。で、遊嬉は、つまり、も少し自由に、さうチャンと、これが共同遊嬉でこれが自由遊嬉など、區別せずに今少し子供らしく遊せたいと思ふのです。一體から云つても幼稚園などの遊嬉は、何もさう共同とか自由とかに分れるものでないと思ひます。

次に遊嬉の材料、幼稚園で用うる遊嬉の材料は即恩物です。他にも種々ありますが、まづ私は恩物を遊嬉の材料と見て、こゝで私の意見を述べたいと考へます。恩物の弄ばせ方を考へて見ますと、一はフレーベル氏の非常な哲學的の考の、彼の發達の法則に基づいて居るのですが、一方から見ると、一は人間の思想の發表の形式といふことに基ついて居ると考へられる。

發達の法則を此恩物に應用して居ることに付いてはさき程の同じ雜誌に大變議論がござりまして、つまり其要旨は、恩物はフレーベル氏の主張せる萬物發達の法則、即具體から抽象に物質から精神に及ぶといふ其哲學的見解を具體的に現はして居るので、即最初の六球は宇宙に象どり積木といふ實體から板箸刺紙といふ様に體から面線點と順次實體から抽象に及ぶので、子供が之れを弄ぶ間に自然に萬物發達の法則の大原理を發見する様な具合にして居るのであるか三歳から六歳までの子供が果して其大原理を理解し得るや否やといふのです。

これは少しこゝで御紹介して宜しいのですが長くありませんから、それは止して、他に私が少し許り考へて居ることを御話し致しましやう。

私の御話致しますのは、つまり恩物弄ばせ方は、さ

つき申し上げました思想の發表の形式に従つて居ることであるのですが、恩物はつまりこうなつて居るでしやう、

一、積木を以て、吾々の觀念を實體的に發表すること、即物を其形の儘に顯はすこと。

二、板を以て、物を平たく上から見たとして平面上に面的に顯はすこと（彩色畫、紙細工の一部も此中に含む。）

三、箸環を以て、物形を、其輪割だけ即平面上に線的に顯はすこと（線畫糸細工も此中に含む。）

四、キシヤゴ小石等を以て物形を其輪割だけ即平面上に點的に顯はすこと。

大體恩物はさう云ふ具合に出來て居るのである、恩物の子供に使用さすのには常に此形式に従つて居る。

併しながら私はこれは斷然宜しくないと思へる。吾

々の觀念を發表する形式は前程の四でありましやう、さればと申して其材料を嚴密に此四の形式にあてはめて其使用を限つて仕舞ふといふのは甚だ無理ではありませぬか。即板は面的發表の材料であるからと云つてどうしても平面上に并べさせねばならぬ箸も環もキシヤゴも皆其通り排べさせねばならぬ、之を立てたり、立て、種々積木や何かと一所に交せて用ゐるのはいけないと云つて之を非常にやかましく制限すると申すことは甚だ判らぬ次第であります。

(未完)

板 と 箸

松村ひさ

私は、或時、私が世話をして居る幼児等に、恩物中の正方形の板一枚と、三寸の箸一本とを、與へまして、これであそべ、といひつけました。そうすると、幼児